

## 訪問療育相談支援

### 平均利用件数を超える利用者の主な理由

～6歳(就学前)	対処方法を伝えて試しても、上手いかずに再度相談依頼がある 母親の不安解消。誰かに相談したい。
～12歳(小学校在学中)	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く生活行為の習熟から始めることが多い為 学校への適応に関する課題が残り、保護者からの要望も強かった。 就学前に相談を受けたが、就学後に上手いかずに再度相談依頼がある
～15歳(中学校在学中)	母親が学校との関係も悪く特定の人しか関われないため。
～18歳(高等部就学中)	委託相談を受けている市以外のため 進路相談 精神状態と集団適応状態が極めて不安定な為、頻回の訪問を要した
18歳以上(高等部卒業後)	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く生活行為の習熟から始めることが多い為 一人暮らし世帯であるため定期的な訪問が必要。 地域移行後の生活環境のケア 母親の不安解消。誰かに相談したい。 特別な支援を要するため。サービスに繋がるのが遅いため。 他の法定サービスにつなげることが出来ない 福祉サービスの理解に時間を要します。 1回の相談だけでは対応困難

### 他の法定サービスに繋がられない(法定サービスと療育支援事業の併用含む)場合の主な理由

～3歳(3年制幼稚園入園前)	・本人保護者の障害受容の習熟がない。 ・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため まだ障害と確定していない為
～6歳(就学前)	・本人保護者の障害受容の習熟がない。 ・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため
～12歳(小学校在学中)	・本人保護者の障害受容の習熟がない。 ・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため コミュニケーションに特化した相談場所が近隣にないため。
～15歳(中学校在学中)	法定サービス事業では効果が得られない所を連携を取りながら療育を行う。 関わる場所への不信感が強く、特定の支援者の話ししか受け入れないため。 本人に障害との認識が乏しく、家族も障害認定を望んでない為
～18歳(高等部就学中)	法定サービス事業では効果が得られない所を連携を取りながら療育を行う。 色々な場所は関係者と関わるが、継続出来ないため 既存の法定サービスと不適合を生じ、関係が途切れてしまっている為 進路相談として学校に行き保護者や本人に会います。
18歳以上(高等部卒業後)	法定サービス事業では効果が得られない所を連携を取りながら療育を行う。 金銭面での支援が必要なので直接サービスには繋がらない。 近隣の相談支援事業所数が少なく、すぐに対応できない 本人が他の法定サービスの利用に関して希望していない。 家から出られない・暴力がひどい 担当相談支援事業所の提案するサービス以外を検討してみたい 障害をもった子供と同居のため、居宅サービスが困難である。

### 障害児等療育支援事業を利用する主な理由

～3歳(3年制幼稚園入園前)	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めるケースが多い。 状況から障害認定前からの支援が必要であった為 障がいでは？という親の気持ちに寄り添うことが大切です。
～6歳(就学前)	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めることが多い。障害受容がない為使用するケースが多い 集団での活動が上手にできない 子育ての不安などどんなことでも相談でき聞いてもらえる 幼稚園保育園等からの相談

～12歳(小学校 在学中)	他児との違いが明らかに始まる時なので、親への情報、支援が必要。
	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めることが多い。障害受容がない為使用するケースが多い。適切な療育的観点の相談もある
	コミュニケーションに特化した相談場所が近隣にないため。
	子育ての不安などどんなことでも相談でき聞いてもらえる
	対人関係、学習の遅れ
	学校関係からの相談
	福祉サービスを利用する以前の方たちへの支援が必要です。
～15歳(中学校 在学中)	適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。
	委託相談を受けている市以外のため
	子育ての不安などどんなことでも相談でき聞いてもらえる
	法定サービスへの繋ぎが支援者との関係途絶の危険があった為
	学校関係、医療機関からの相談
	特別支援学校高等部に入学する岐路となります。
～18歳(高等部 就学中)	適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。
	委託相談を受けている市以外のため
	卒業後の地域生活・療育支援機関についての情報。
	年齢問わず、どんなことでも相談できる。
	既存の法定サービスが途切れてしまってる以上、やむを得ず
	家庭・本人の経済的理由
	就職か福祉事業所の利用か選択があります。
	卒業後の進路相談
	法定サービスに繋がるまでの相談で利用

## 訪問療育支援

### 平均利用件数を超える利用者の主な理由

～3歳(3年制幼稚園入園前)	継続的な療育を必要としているため ・運動や口腔機能の発達の遅れが大きく、発達の更なる遅滞を避けるため、頻回な指導が必要であったため。又、保護者の不安も大きいため 身体面の課題が多く、定期的な療育や評価が必要。
～6歳(就学前)	継続的な療育を必要としているため 就学を控えて不安を抱えている保護者が多い。丁寧な療育を希望している。
～12歳(小学校在学中)	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く生活行為の習熟から始めることが多く、適切な療育の間接的指導の役割を行う 1か月に1度の定期的な療育を希望している。
～15歳(中学校在学中)	本児の療育的観点から、本児の生活習慣の維持、学校生活の確保を行う 母親が学校との関係も悪く特定の人しか関われないため。 家庭の能力的に本児の行動に対処することが難しく、地域が連携して継続的に関わっていく必要があるため。
～18歳(高等部就学中)	身体障害が重く既存のサービスが利用出来ないため。
18歳以上(高等部卒業後)	人工呼吸器使用で、自発呼吸もなく、既存のサービスでは利用出来るものがないため。 健康状態に変化が見られるため

### 他の法定サービスに繋がられない(法定サービスと療育支援事業の併用含む)場合の主な理由

～3歳(3年制幼稚園入園前)	・本人保護者の障害受容の習熟がない。 ・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため 保護者が療育を希望しているため ・感染症を予防する必要があるため、外出や集団に入ることに制限があったため 医療ケアが必要で年齢も低いため。 近隣に低年齢児かつ障害程度が重い児に対するサービスがないため 本人にあったサービスがないため。 支援したい内容の法定サービスない まだ小さいので、訪問系のサービスしか受けられないため。 状態に応じた個別の法定サービスを実施している事業所が少ない。
～6歳(就学前)	・本人保護者の障害受容の習熟がない。 ・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため 保護者が療育を希望しているため 医療ケアが必要で対応する施設が少ないため。 幼稚園に在籍すると、療育に時間が重なり、受けることが出来ない。 支援したい内容の法定サービスない 家族全部を含めて療育を受けたいため、土曜日の開設が利用しやすい。
～12歳(小学校在学中)	・本人保護者の障害受容の習熟がない。 ・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため。 法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。 ・医療行為が適時必要であり、体調も崩しやすく、外出が困難なため 本人が必要とする療育が学齢期になるとほとんどないため。 幼児期からの継続で療育を受けたい。土曜開設の為父親の参加がしやすい。
～15歳(中学校在学中)	法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。 身体障害が重く既存のサービスが利用出来ないため。 児及び家庭に定期的な訪問、継続的な関わりの必要性が高いため
～18歳(高等部就学中)	法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。 ・外出が困難なため(保護者支援も必要) 身体障害が重く既存のサービスが利用出来ないため。
18歳以上(高等部卒業後)	法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。 現状の維持を目的とするリハビリテーションの機会がないため 身体障害が重く既存のサービスが利用出来ないため。 特殊な技能を必要とする支援のため 障害受容が出来ていないため

障害児等療育支援事業を利用する主な理由

～3歳(3年制幼稚園入園前)	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めるケースが多い。
	運動・発達の遅れ
	運動発達支援。
	乳児期から就園までの早期療育の質の向上・療育に携わる専門的な人材確保のため
	本人に必要な療育を受けられるため。
	家庭環境の把握と家庭での過ごし方の確認のため。摂食状況の確認。
	発達に心配のある児の最初の相談の場所としての機能 市、保育所、保健師などから紹介された。
～6歳(就学前)	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めることが多い。障害受容がない為使用するケースが多い
	運動・発達の遅れ
	・診断名や障害名の有無にかかわらず、発達に心配や問題のあるお子さんに対してより早期から支援を行うため
	幼稚園に在籍すると、療育に時間が重なり、受けることが出来ない。
	家庭環境の把握と家庭での過ごし方の確認のため。
	集団の中で適応的な行動が難しい児のアセスメントと対応方法の助言、福祉サービス(療育)への橋渡し
～12歳(小学校在学中)	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めることが多い。障害受容がない為使用するケースが多い。適切な療育的観点の相談もある
	・障害者自立支援法、児童福祉法において、他に利用できる適当な制度がないため
	本人が必要とする療育が学齢期になるとほとんどないため。
	集団生活に課題のある児のアセスメントと対応方法の助言、医療や福祉サービスへの
～15歳(中学校在学中)	適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。
	・個々の現状に応じた個別的な訪問指導を実施している事業所が無いため
	身体障害が重く既存のサービスが利用出来ないため。
	家庭だけでは対応しきれない児への継続的な対応(生活技術の向上および問題行動の抑止)
～18歳(高等部就学中)	適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。
	身体障害が重く既存のサービスが利用出来ないため。

## 外来療育相談支援

### 平均利用件数を超える利用者の主な理由

～3歳(3年制幼稚園入園前)	保護者の不安解消のため 児童発達支援利用についての相談
～6歳(就学前)	障害特性判断のため 状態と状況が非常に不安定で、頻回の相談支援が必要な為 就学についての相談、母の不安解消
～12歳(小学校在学中)	家庭と学校双方で生活安定に向けた密なる相談のため WISC-IVの検査、検査報告、支援方法 母親の不安解消。話を聞いてもらえる。 状態と状況が非常に不安定で、頻回の相談支援が必要な為 お母さんの不安が高く、細やかなサポートを必要としているため。
～15歳(中学校在学中)	家庭と学校双方で生活安定に向けた密なる相談のため 初回相談で問題解決に至らなかったため 母親の不安解消。話を聞いてもらえる。 状態と状況が非常に不安定で、頻回の相談支援が必要な為
～18歳(高等部就学中)	家庭と学校双方で生活安定に向けた密なる相談のため 初回相談で問題解決に至らなかったため 母親の不安解消。話を聞いてもらえる。 状態と状況が非常に不安定で、頻回の相談支援が必要な為
18歳以上(高等部卒業後)	障害特性からサービス利用につなげられないため 適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。 サービス利用に関する定期的な相談。 継続的なケアを要するため 行動障害への対応が早急に必要であった。 相談支援事業所がすぐに対応できない 2/3は精神の手帳をお持ちの方で希望を聞くまでに時間を要する。 1回の相談だけでは対応困難

### 他の法定サービスに繋がられない(法定サービスと療育支援事業の併用含む)場合の主な理由

～3歳(3年制幼稚園入園前)	子どもの発達の見極めが難しい ・本人保護者の障害受容の習熟がない。 ・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため 受け入れて頂ける保育所等に空きが無い。 年齢が低いので、様子を見ている段階 巡回等での指摘でまだ障がい認知が出来ない事が多いため
～6歳(就学前)	保護者の障害受容が難しい ・本人保護者の障害受容の習熟がない。 ・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため 受け入れて頂ける保育所等に空きが無い。事業所が少なく限られている。 計画相談の紹介と利用を提起したが、繋がったどうかの結果は不明 家族と本人の拒否・無理強いすると関係自体が途絶する可能性がある為 保育所、幼稚園を利用、保護者の就労の為 巡回等での指摘でまだ障がい認知が出来ない事が多いため
～12歳(小学校在学中)	・本人保護者の障害受容の習熟がない。 ・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため。 法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。 母親がサービスが必要とまで考えていないが、話を聞いてほしい 家族と本人の拒否・無理強いすると関係自体が途絶する可能性がある為 障害(場面緘黙)の特殊性から病院以外のサポートが受けづらいため。 障がい認知の問題、知られたくない
～15歳(中学校在学中)	法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。 家族と本人の拒否・無理強いすると関係自体が途絶する可能性がある為 障がい認知の問題、知られたくない
～18歳(高等部就学中)	法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。 不登校について学校と教員側から協力を得られなかった 家族と本人の拒否・無理強いすると関係自体が途絶する可能性がある為

	相談のみで良いから、社会生活に支障がある？
18歳以上（高等部卒業後）	障害のグレーゾーンや対人関係課題が大きく他者を受容できない 法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。 自閉症の方の退院・在宅支援等の初回相談としての位置づけのため。 本人の状態（対人面での精神的な不安）と家族の療育支援の在り方。 特に18才以上の精神の方の心療内科等の受診の支援。 受け入れ先が無い

#### 障害児等療育支援事業を利用する主な理由

～3歳（3年制幼稚園入園前）	発達気になる子どもの特性の見立てと保護者支援 発達相談・短期入所事業の利用について 主たる介護者の養育困難を抱えている（自身の疾病等）ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めるケースが多い。 障害認定を受けたばかりで混乱している保護者が多数事業所利用に相談に来られる。 ちょっとした心配の時、病院や児童相談所というよりもまずは身近なところに相談したいという方が多いため。 ことば面の遅れ、落ち着きの無さ まだ障がいではないが、相談をしたい 市の自立支援協議会との連携を図っている。 委託契約している3市からの収入だけでは経営が不安定のため
～6歳（就学前）	発達気になる子どもの特性の見立てと保護者の子ども理解の促進 主たる介護者の養育困難を抱えている（自身の疾病等）ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めることが多い。障害受容がない為使用するケースが多い 放課後等デイサービスの利用についての相談。 母親の子育ての不安 障害認定自体に拒否があるものの支援が不可欠な為 療育施設からの相談 親の不安が高い時や、集団活動で心配な時、保健師や幼稚園、保育所が身近な相談機関として紹介して下さることが多いため。 集団参加面の未熟さ、学習面の遅れ 集団適応が主で、障がいとして認知したくないから 市の自立支援協議会との連携を図っている。 委託契約している3市からの収入だけでは経営が不安定のため 就学後のデイサービスの場所や状況を知りたい。
～12歳（小学校在学中）	学校への課題への対応、サービス利用に向けた相談 発達相談・短期入所事業の利用について 主たる介護者の養育困難を抱えている（自身の疾病等）ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めることが多い。障害受容がない為使用するケースが多い。適切な療育的観点の相談もある WISC-IVの検査 母親の子育ての不安 障害認定自体に拒否があるものの支援が不可欠な為 相談者に事業所のOBの方も多く、心配なことが起きた時、幼児期から知ってくれているところでまず相談に乗ってもらいたいという方が多いため。 病院には行きたくない 法定サービスを受けるための相談 長期の休みに対応できる場所を探している保護者が多い。 発達障害のお子さん。他の子への暴力があり、年齢相応に発達していないと言われ、どこかで指導を受ければ治るのかと考え、母が相談に来られた。 委託契約している3市からの収入だけでは経営が不安定のため 放課後の通所利用や長期休み、土日祝日に利用できるサービス事業所を紹介してほしい。サービス等利用計画等の制度に対することを聞きたい等の相談が多い。
～15歳（中学校在学中）	学校への課題への対応、サービス利用に向けた相談 発達相談・短期入所事業の利用について 適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。 卒業後の進路先の相談。 家庭での療育的な支援の在り方について。 母親の子育ての不安

	<p>障害認定自体に拒否があるものの支援が不可欠な為</p> <p>医療機関からの相談</p> <p>病院には行きたくない</p> <p>卒業後の進路を考えていくうえでの相談</p> <p>親や学校の先生以外の大人と会い会話をすること。</p> <p>委託契約している3市からの収入だけでは経営が不安定のため</p> <p>放課後の通所利用や長期休み、土日祝日に利用できるサービス事業所を紹介してほしい。サービス等利用計画等の制度に対することを聞きたい等の相談が多い。</p>
～18歳(高等部就学中)	<p>障害福祉サービスへの利用前の相談支援</p> <p>学校への課題への対応、サービス利用に向けた相談</p> <p>適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。</p> <p>卒業後の進路先の相談。</p> <p>卒業後の地域生活・療育支援について相談。</p> <p>年齢問わずどんなことでも相談できる。</p> <p>障害認定自体に拒否があるものの支援が不可欠な為</p> <p>相談機関がほかにはない</p> <p>卒業後の進路を考え相談</p> <p>就労支援についての相談</p> <p>進路相談や学校と家庭との連携をとるようにしている。</p> <p>卒業後の進路を考えるにあたって、当事者の障害特性・思春期による情緒面の不安定さなどが障壁となり、次に進めない方やその家族からの相談。</p> <p>小中学校と同じ内容と高等部卒業後の進路についての相談。</p> <p>法定サービスに繋がるまでの相談で利用</p>
18歳以上(高等部卒業後)	<p>障害福祉サービスへの利用前の相談支援</p> <p>本人の特性理解の促進 法定サービスに繋がらない方への相談支援</p> <p>適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。</p> <p>日中活動場所の確保、宿泊施設を探している</p> <p>自閉症の方の相談の問い合わせ・要望に応えるため</p> <p>家族の療育支援の考え方と福祉サービスへの移行の必要性。</p> <p>年齢問わずどんなことでも相談できる。</p> <p>相談支援事業所がすぐに対応できない 気軽に相談できる場所がない</p> <p>相談窓口がわからず来所するケースがほとんどであるので外来療育相談支援事業を窓口として用い、他機関へつなげている。</p> <p>就労支援を希望</p> <p>高校卒業後から福祉サービスを利用するまでの過ごし方。</p> <p>短期入所先で、他害行為があり、思うような支援を受けることができていない。家庭での生活環境や今度について、また他害行為などへの対応の相談。</p> <p>家庭での養育が困難な状況に陥り、家庭以外の場所での生活を模索するが、障害者手帳がなく周りの理解が進まないケースや、障害特性・情緒面の不安定さから次の手が打てないケースからの相談。</p> <p>日中活動の活動場所を教えてほしいという、身体障害者からの相談が多い。</p> <p>経済的理由</p> <p>福祉サービス利用を視野に入れた内容が多くなっている。</p>

## 外来療育支援(個別)

平均利用件数を超える利用者の主な理由

～3歳(3年制幼稚園入園前)	受給者証が発行されない為
	他の療育施設につなげる前に身体や対人面の発達を促すため。
	継続的な療育を必要としているため
	複数のセラピストの相談を受けている。母の不安が強く、相談頻度をあげている。
	・お子さんの現状から発達の更なる遅滞を避けるため、頻回な指導が必要である(構音練習の効果を上げる、拘縮変形の進行を防ぐため他)
	・保護者の不安が大きく、お子さんの現状に対する理解も進んでいない
	個々の能力に応じた療育を行っているため。
	未歩行児の運動機能の支援・療育の頻度が多く必要。
	多職種による療育ならびに多くの訓練頻度を要する状態にあったため
	継続支援が必要なため複数回の利用になった
	児の特徴の把握と保護者への説明、療育機関へのつなぎ
	母の不安が高く同じところで支援を受けたいため。
	保護者が療育が必要と思っている
	緊急度が高い
	色々な遊びが経験できるから
	発達障害がある児童や言語訓練の必要がある児童の場合、継続的な支援が必要とな
	定期的な療育を必要とする。保護者を定期的にサポートする必要がある。
～6歳(就学前)	受給者証が発行されない為
	社会性、認知面、言語面等の基礎的な能力を促し、就学に備えるため。
	介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く生活行為の習熟から始めることが多く適切な療育の間接的指導の役割を行う。
	継続的な療育を必要としているため
	複数のセラピストの相談を受けている。母の不安が強く、相談頻度をあげている。
	・お子さんの現状から発達の更なる遅滞を避けるため、頻回な指導が必要である(構音練習の効果を上げる、拘縮変形の進行を防ぐため他)
	・保護者の不安が大きく、お子さんの現状に対する理解も進んでいない
	小学校入学に前に一定水準の能力を具備したいという親のニーズによる。
	個々の能力に応じた療育を行っているため。
	後天的発症により、運動機能回復に支援頻度が多く必要。
	2種以上の療育に通所しているため
	継続支援が必要なため複数回の利用になった
	保護者の障害認識不足が、子の状態の不安定さを増強していたから
	母の就労などであまり利用できるサービスが近くにないため。
	児童発達支援の空き待ち。保護者就労の為土曜日しか来れない。
	小学校入学前に一定水準の能力を持たせたいとする親のニーズ
	重度児童、問題が複雑
	座って活動する機会や家庭ではできないダイナミックな遊びを求めている
	発達障害がある児童や言語訓練の必要がある児童の場合、継続的な支援が必要とな
	定期的な療育を必要とする。保護者を定期的にサポートする必要がある。
～12歳(小学校在学中)	主に利用者に対する学習的な支援(基本的にはSSTの手法を使用)平均1名につき週1回ではあるが個人によりばらつきがある。
	複数のセラピストの相談を受けている。
	・お子さんの障害が重度なため、拘縮変形が進む可能性があり、頻回な指導(理学療法、作業療法など)が必要なため
	学校に通う中で、苦手とする領域の補完や対策を立てたいというニーズによる。
	小学校に入学し学校についていけるか手厚いフォローが必要な時期のため。
	障害の特殊性もあり、長期の療育の必要性があるため。
	普通級に通う中で、苦手とする部分の補完や対策に係るニーズ
	2種類の支援を受けているため(音楽療法と書道)
	学校への適応を急ぐため



	運動面に対して学校生活に取り入れられることを知ることができる 発達障害がある児童や言語訓練の必要がある児童の場合、継続的な支援が必要とな 専門的な定期支援による改善への期待が大きい。
～15歳(中学校 在学中)	主に利用者に対する学習的な支援(基本的にはSSTの手法を使用)平均1名につき週1 回ではあるが個人によりばらつきがある。 継続的な理学療法を必要としているため 複数のセラピストの相談を受けている。 ・お子さんの障害が重度なため、拘縮変形が進む可能性があり、頻回な指導(理学療 法、作業療法など)が必要なため 思春期に入り、本人の問題行動が増えてきたため。 一人が途中退会で利用回数が少ないため(週1ペースで支援) 学校への適応を急ぐため、問題の緊急度 発達障害がある児童や言語訓練の必要がある児童の場合、継続的な支援が必要とな 定期的に利用することで子の状態が安定する。
～18歳(高等部 就学中)	主に利用者に対する学習的な支援(基本的にはSSTの手法を使用)平均1名につき週1 回ではあるが個人によりばらつきがある。 継続的な理学療法を必要としているため ・お子さんの障害が重度なため、拘縮変形が進む可能性があり、頻回な指導(理学療 法、作業療法など)が必要なため 社会に出るにあたり必要なことを身につけたいとのニーズによる。 終了に向けての仕上げを行っている。 2種類の支援を受けているため(音楽療法と書道) 問題の重篤化
18歳以上(高等 部卒業後)	障害特性からサービスにつなげられないため 主に利用者に対する学習的な支援(基本的にはSSTの手法を使用)平均1名につき週1 回ではあるが個人によりばらつきがある。 ほとんどの方が月1回利用。現在の身体機能維持のためには最低でも月1回以上のリ ハビリが必要なため。 通所している成人施設に馴染めずストレスを抱えていた為 一人が病欠等をしたため(週1ペースで支援) 問題の重篤化

他の法定サービスに繋がられない(法定サービスと療育支援事業の併用含む)場合の主な理由

～3歳(3年制幼 稚園入園前)	医療的ケアが必要な為 子どもの発達の見極める段階のため サービス利用に関して、保護者の障がい受容ができていない等のケースが多い。 ・本人保護者の障害受容の習熟がない。・本児の今後の生活から現段階で法定サービ スに繋げる必要がないと判断するため 保護者の希望があるため 障害受容には時間を要することが多いため。 ・年齢が小さく、診断がついていないお子さんが多いため・保護者の障害受容に時間を 要し、受給者証などの取得につながるまでに時間がかかるため 発達やコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少な 著しく集団行動がとれない場合(該当者はほとんどいない)。 年令が低く、他のサービスが少ない。利用者が受給者証への抵抗感がある。 近隣に低年齢児かつ障害程度が重い児に対するサービスがないため 支援したい内容の法定サービスない 発達の遅れ等、受け入れにくい保護者への大切な期間 我が子に障害があるとの認識をまだ持てないが、育児には不安がある為 保護者の意向のもとサービスにつなげている 母の不安が高く、様々なところに行けないため。 年齢が低いので、障害を受けとめる段階ではない 効果的な法定サービスを提供する事業者が近隣にないため。 法定サービスを利用するための手帳等を所有していない児童が多いため 他の事業所への移動の手段がない。近隣に療育の施設がない。
～6歳(就学前)	医療的ケアが必要な為 サービス利用に関して、保護者の障がい受容ができていない等のケースが多い。 ・本人保護者の障害受容の習熟がない。・本児の今後の生活から現段階で法定サービ スに繋げる必要がないと判断するため

	<p>保護者の希望があるため</p> <p>障害受容には時間を要することが多いため。</p> <p>・年齢が小さく、診断がついていないお子さんが多いため・保護者の障害受容に時間を要し、受給者証などの取得につながるまでに時間がかかるため</p> <p>発達やコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少な著しく集団行動がとれない場合(該当者はほとんどいない)。</p> <p>利用者が受給者証への抵抗感がある。</p> <p>療育手帳や受給者証がなくとも発達の心配な幼児に個別療育を行えるため。</p> <p>支援したい内容の法定サービスない</p> <p>親の障害需要及び支援の結果サービス利用の必要性がなかったため</p> <p>我が子に障害があると分かっているにもかかわらず、公的認定には拒否的である為</p> <p>保護者の意向のもとサービスにつなげている</p> <p>母の就労と両立できないため。</p> <p>児童発達支援を終了し、保育所、幼稚園のみの利用の為</p> <p>効果的な法定サービスを提供する事業者が近隣にないため。</p> <p>障がい認知が出来ない、他の機関がない</p> <p>法定サービスを利用するための手帳等を所有していない児童が多いため</p> <p>他の事業所への移動の手段がない。近隣に療育の施設がない。</p>
～12歳(小学校在学中)	<p>・本人保護者の障害受容の習熟がない。・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため。法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。</p> <p>放デイ等だけでは、専門的な指導が受けられない現状であるため。</p> <p>・個別指導を受けられる事業所(理学療法、作業療法など)が少ない</p> <p>発達やコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少な著しく集団行動がとれない場合(該当者はほとんどいない)。</p> <p>どの療育が対象時に適切なニーズなのかを探るためのアセスメントに利用し、他の法定サービスにつなげる努力をしている。</p> <p>他のサービスが少ない。(理学療法)</p> <p>未就学児にはあったSTなどの個別療育が受けられる事業所が近隣にないため。</p> <p>義務教育等で法定サービスに繋げにくい</p> <p>慣れない場所での対応が親子で難しいため。</p> <p>効果的な法定サービスを提供する事業者が近隣にないため。</p> <p>特殊な技能を必要とする支援のため</p> <p>障がい認知が出来ない、他の機関がない</p> <p>法定サービスを利用するための手帳等を所有していない児童が多いため</p> <p>近隣に個別で療育を受けられる施設がない。</p>
～15歳(中学校在学中)	<p>法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。</p> <p>保護者からの希望があるため</p> <p>放デイ等だけでは、専門的な指導が受けられない現状であるため。</p> <p>・個別指導を受けられる事業所(理学療法、作業療法など)が少ない</p> <p>発達やコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少な</p> <p>他のサービスが少ない。(理学療法)</p> <p>思春期特有の問題を対応できる療育機関がないため。</p> <p>義務教育等で法定サービスに繋げにくい</p> <p>効果的な法定サービスを提供する事業者が近隣にないため。</p> <p>特殊な技能を必要とする支援のため</p> <p>障がい認知が出来ない、他の機関がない</p> <p>法定サービスを利用するための手帳等を所有していない児童が多いため</p> <p>近隣に個別で療育を受けられる施設がない。</p>
～18歳(高等部就学中)	<p>法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。</p> <p>保護者からの希望があるため</p> <p>・個別指導を受けられる事業所(理学療法、作業療法など)が少ない</p> <p>発達やコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少な</p> <p>他のサービスが少ない。(理学療法)</p> <p>STによる療育を受けられる事業所がないため。</p> <p>特殊な技能を必要とする支援のため</p> <p>障がい認知が出来ない、他の機関がない</p>
18歳以上(高等部卒業後)	<p>サービス利用までの課題が大きいため</p> <p>法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。</p>

	成人後の身体機能維持のためのリハビリ施設・制度が不足しており、引き継げる制度がないため。
	他のサービスが少ない。(理学療法)
	自尊心が高く、利用者として施設を利用する事に抵抗が強いため。
	就労施設外で情緒の安定をはかる為
	特殊な技能を必要とする支援のため
	障がい認知が出来ない、他の機関がない

#### 障害児等療育支援事業を利用する主な理由

～3歳(3年制幼稚園入園前)	受給者証が発行されない為
	発達の気になる子どもの特性の見立てと保護者支援
	運動機能面や言語等の遅れに対する支援を希望しているため。
	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めるケースが多い。
	発達の遅れ
	健診後のフォロー相談。家庭での子育てについての相談。
	発達や発音も含めたコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少ないため。
	個別療育により発達の向上が見込まれるため。
	運動発達、言葉の発達支援。
	乳児期から就園までの早期療育の質の向上・療育に携わる専門的な人材確保のため
	発達全般の支援が必要な児に対応した支援を行い成長を促すため
	法定サービスまでの準備段階として必要
	障害認定の手続き自体に拒否があるものの実際の支援は必要であるから
	集団生活を始める前に、当センターの様々な教材や運動遊具を使い療育支援を行なっている。
	活動を通してお子さんの持っている力を高め、豊かにしていく。
	発達に心配のある児の最初の相談の場所としての機能
	身近なところの方が相談したり療育を受けたりしやすいため。
	言葉面のおくれ、落ち着きの無さを就園前に改善するため
	発達・構音等の遅れに気付いても近隣で適切なサービスを受けられないため。
	落ち着きがない、ことばが少ない母の育児不安
	委託契約している3市からの収入だけでは経営が不安定のため
	専門家から勧められたから。
～6歳(就学前)	受給者証が発行されない為
	運動機能面や言語等の遅れに対する支援を希望しているため。
	主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めることが多い。障害受容がない為使用するケースが多い
	発達の遅れ
	幼稚園等集団適応、就学に向けての相談。
	診断名や障害名の有無にかかわらず、発達に心配や問題のあるお子さんに対してより早期から支援を行うため
	発達や発音も含めたコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少ないため。
	個別療育により発達の向上が見込まれるため。
	言葉の発達支援。
	幼児期から就学までの早期療育の質の向上・療育に携わる専門的な人材確保のため
	発達全般の支援が必要な児に対応した支援を行い成長を促すため
	法定サービスまでの準備段階として必要
	発達検査等により苦手分野等を客観的にみるため
	障害認定の手続き自体に拒否があるものの実際の支援は必要であるから
	幼稚園、保育所等で集団生活を送る中で困り感やつまづきを抱え、お子さんが少しでも生活しやすいように、様々な教材や運動遊具を使い、療育支援を行っている。
	活動を通して、お子さんの持っている力を高め、豊かにしていく。
	集団の中で適応的な行動が難しい児のアセスメントと対応方法の助言、福祉サービス(療育)への橋渡し
	幼稚園、保育所、母の仕事を休まず対応してもらえるため。
	集団参加面の未熟さ、学習面の遅れがあり、保育所、幼稚園だけでは心配
	発達・構音等の遅れに気付いても近隣で適切なサービスを受けられないため。

	<p>無料で利用でき、専門の療育を受けられる</p> <p>発達に遅れがあると診断されたから。相談にのってくれる職員がいるため。</p> <p>委託契約している3市からの収入だけでは経営が不安定のため</p> <p>専門家から勧められたから。</p>
～12歳(小学校在学中)	<p>主たる介護者の養育困難を抱えている(自身の疾病等)ことが多く本児保護者の生活行為の習熟から始めることが多い。障害受容がない為使用するケースが多い。適切な療育的観点の相談もある</p> <p>幼少の頃から通っているため同じところで相談をしたいという保護者の希望から。</p> <p>障害者自立支援法、児童福祉法において、他に利用できる適当な制度がないため</p> <p>発達や発音も含めたコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少ないため。</p> <p>個別療育により発達の向上が見込まれるため。</p> <p>保護者の利用負担額を減らすため。</p> <p>運動発達支援。</p> <p>STIによる療育を受けられる事業所がないため。</p> <p>義務教育を受けながら、支援を模索していくのに必要</p> <p>本人はもちろん母や学校・病院など多方面にアプローチしてもらえるため。</p> <p>発達・構音等の遅れに気付いても近隣で適切なサービスを受けられないため。</p> <p>学校の授業等の補助も視野に入れた支援をするから</p> <p>無料で利用でき、専門の療育を受けられる</p> <p>卒園後も入園時同様、運動面に対する個別を受けたい</p> <p>委託契約している3市からの収入だけでは経営が不安定のため</p> <p>学校の授業を抜け出さないで個別の療育を受けたい。希望日等融通がきくから</p>
～15歳(中学校在学中)	<p>適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。</p> <p>運動機能障害</p> <p>幼少の頃から通っているため同じところで相談をしたいという保護者の希望から。</p> <p>個々の現状に応じた個別的な指導を実施している事業所が少ないため</p> <p>発達や発音も含めたコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少ないため。</p> <p>運動発達支援。</p> <p>STIによる療育を受けられる事業所がないため。</p> <p>義務教育等で法定サービスは受けにくいものの、専門職との支援の繋がり必要</p> <p>グレーゾーンの児のアセスメント(福祉サービスへの繋ぎ)、発達障害児の社会生活能力の向上(継続支援が必要だが社会資源が無いため)</p> <p>発達・構音等の遅れに気付いても近隣で適切なサービスを受けられないため。</p> <p>学校の授業等の補助も視野に入れた支援をするから</p> <p>無料で利用でき、専門の療育を受けられる</p> <p>病院のリハビリ回数が減る。成長に伴い変形等二次的障害や合併症等も含め対応や相談ができる</p> <p>委託契約している3市からの収入だけでは経営が不安定のため</p> <p>1年に1～2回でよいから継続して様子をみてほしい。</p>
～18歳(高等部就学中)	<p>適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。</p> <p>運動機能障害</p> <p>幼少の頃から通っているため同じところで相談をしたいという保護者の希望から。</p> <p>発達や発音も含めたコミュニケーションに関する効果的なサービスを提供する事業所が近隣に少ないため。</p> <p>運動発達支援。</p> <p>STIによる療育を受けられる事業所がないため。</p> <p>個人の特性を伸ばし、卒業後の生活の相談にも乗れるから</p> <p>無料で利用でき、専門の療育を受けられる</p> <p>病院のリハビリ回数が減る。成長に伴い変形等二次的障害や合併症等も含め対応や相談ができる</p>
18歳以上(高等部卒業後)	<p>本人の特性理解の促進 法定サービスに繋がらない方への相談支援</p> <p>適切な療育の間接的指導の役割を行う。法定サービス事業では、補えない療育的観点の相談が多い。</p> <p>成人後の身体機能維持のためのリハビリ施設・制度が不足しており、引き継げる制度がないため。</p>

運動発達支援。
高校卒業後、専門学校で介護福祉士資格を取得し就職するが人間関係が原因で統合失調症を発症。母子分離し、生活のリズムを整えることが支援課題。
在学中から利用し、継続利用の希望がある為
個人の特性を伸ばし、QOLの向上を考えた支援をするから
無料で利用でき、専門の療育を受けられる

## 外来療育支援(集団)

他の法定サービスに繋がられない(法定サービスと療育支援事業の併用含む)場合の主な理由

利用料金の負担や通える範囲の事業所が少ない。
保護者が専門的な療育を希望しているため
2歳前後のお子さんで、医療につなげても経過観察になることが多く、お子さんへ関わり方や環境調整等まで細かく相談にのってくれるところがないため。
・保護者の障害受容が不十分であったり、診断がつくまでに時間がかかり、受給者証などの取得までに時間がかかるため
発達障害の子どもの社会性を育てるためにソーシャルスキルトレーニング(SST)を行っているが、近隣にSSTを中心にした集団指導を行う事業所がないため。
グループ療育を受けることにより、ある程度の集団行動がとれるようになるため他の法定サービスを利用できないことはない。
該当する他の法定サービスがないため。利用者の内面的なサポートをする法定サービスがないため
利用保護者の、障害児通所受給者証に対する抵抗感。
療育手帳や受給者証等を取得しなくても集団療育を受けることができるため、保護者が障害の受容が進んでいない場合にあっては療育を行うことができる。
通常級に在籍する発達障害児にたいするSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施している。
適切な法定サービスが近隣にないため。
支援したい内容の法定サービスない
保護者の意向のもと、サービスにつなげている
特殊な技能を必要とする支援であるため個別支援と並行して行うことによって効果が大きくなるため
多くの利用者が手帳を取得できない為、福祉サービスへつながりにくい点と、この地域に児童を支援する機関がないため

障害児等療育支援事業を利用する主な理由

＜2歳児・3歳児＞ 親子や子ども同士の触れ合いを通して、コミュニケーション能力や社会性を育む必要があるため。
＜4歳児・5歳児＞ 小集団への簡単なルールのある遊び等を通して集団生活における社会性の基礎を学ぶ必要がある
発達の遅れ
1歳6ヶ月児健診後、小集団の中でお子さんへの関わり方や家庭での生活の方法を同じ悩みを持った母同士つながりを持ちながら学ぶ場となっているため。
・診断名や障害名の有無にかかわらず、発達に心配や問題のあるお子さんに対してより早期から支援を行うため
・在宅や保育園・幼稚園通園児を対象としており、他に利用できる適当な制度がないため
・児童発達支援事業所を利用しているお子さんは、対象外としている。
近隣の事業所で、発達障害や聴覚に課題を抱えた子どものコミュニケーションや社会性を育てる小集団での効果的な指導・療育を受けられないため。
グループ療育により他者とのコミュニケーション能力の向上が見込まれるため。
ことばの発達支援。集団性・社会性の支援。
集団療育の質の向上のため。定期的に療育できるよう療育回数を確保し、集団生活での適応を促すため。そのために安定した質の高い専門家の人材が必要のため。
友達との関わりが上手く行かない児や、自己肯定感が得られていない児に対しSSTを行うことで、社会ルールの獲得、達成感の獲得をねらうため。
発達について心配・不安のある保護者と児が、集団の経験をすることで関わり方を知り、成長を促すように支援するため
市内のマザーズホーム、児童ディサービスでの療育支援活動の一環として実施。地域資源として活用
集団の中で当センターの様々な教材や運動遊具を使い、療育支援を行っている。
障害児等の特性を理解し、保護者の相談にのり、継続的な支援で効果が期待できるため
療育手帳が取得できない児童が多く、また障がい認知出来ない家庭にとって、集団で出来る療育には大きな価値と意義がある為
まわりに子どもがいないので、子どもとの関わりを求めたり、家庭では味わえない遊びをたくさん経験できるから。
職員に相談できるから。

## 施設支援指導

### 平均利用件数を超える施設の主な理由

児童発達支援事業所	行為障害・強度行動障害の子たちへの対応に当該施設単独では困難であった為
放課後等デイサービス事業所	肢体不自由児に対するポジショニング等の専門智識を持った職員が不在なため。
保育所	<p>発達に課題を抱える児の数が多く、職員が対応に苦慮しているため。</p> <p>障害受容の習熟や生活行為の習熟から始めることが多く適切な療育の間接的指導の役割を行う。</p> <p>支援を必要とする子どもが多いため</p> <p>複数のセラピストによる支援を希望しているため。</p> <p>・1回あたりの相談児童数が多い</p> <p>・お子さんの現状や対応方法を園の職員に説明しているが、それを理解してもらうのに時間を要する</p> <p>相談対象児童が多いため。</p> <p>対象者数が多い。</p> <p>行動上の問題を呈し、集団生活を送ることが困難な児が複数人在所しているため</p> <p>1回で対応できるケース数を超えた場合や施設的环境等により複数回支援が必要なため</p> <p>障害認定前もしくは障害と健常の境界上の子たちが多数在籍していた為</p> <p>年長、年中、年少以下のクラス毎に気になる児についての支援を希望している</p> <p>気になる子どもが多く、訪問の要望が強かった為</p> <p>保育所から挙げられた園児数が多数あり、発達を確認しながら定期的な話し合いが必要であった。</p> <p>・施設の支援内容の不安 ・専門的見解の要望</p> <p>スケジュール調整は市が行っている</p>
幼稚園	<p>発達に課題を抱える児の数が多く、職員が対応に苦慮しているため。</p> <p>相談対象児童が多いため。</p> <p>経過を追う必要性が高い。</p> <p>行動上の問題を呈し、集団生活を送ることが困難な児が複数人在園しているため</p> <p>発達の気になる児童や園生活に困難さがある児童の実数が多かったため。</p> <p>1回で対応できるケース数を超えた場合や施設的环境等により複数回支援が必要なため</p> <p>障害認定前もしくは障害と健常の境界上の子たちが多数在籍していた為</p> <p>気になる児が複数いて、少なくとも学期に1回継続訪問の希望がある</p> <p>・施設の支援内容の不安</p> <p>・専門的見解の要望</p> <p>スケジュール調整は市が行っている</p>
こども園	<p>相談対象児童が多いため。</p> <p>・施設の支援内容の不安</p> <p>・専門的見解の要望</p>

### 他の法定サービスに繋がられない(法定サービスと療育支援事業の併用含む) 場合の主な理由

児童発達支援事業所	行為障害が深刻で、児相を含め全法定サービスが関与しても状況が悪化していた為
放課後等デイサービス事業所	<p>運営上専門職が配置できていないため。</p> <p>他に相談できる機関がない</p> <p>特殊な技能を必要とする支援であるため</p>
保育所	<p>PT、OT、ST、保健師等の専門職が配置されていないため。</p> <p>・本児の今後の生活から現段階で法定サービスに繋げる必要がないと判断するため。</p> <p>法定サービス事業で補えない所を連携を取りながら療育を行う。</p> <p>当施設との連携が必要なため</p> <p>書類上障害児という表記が出てくるため、親の受け入れが整っておらず、保育所等訪問支援に繋ぐことは難しい。</p> <p>・相談対象児は保護者がまだ認識していない場合や明らかな障害名がつかない場合もあり、法的サービスにつなげにくい。</p> <p>効果的な法定サービスを提供する事業所が近隣にないため。</p>

	園の希望であるため。
	対象児が受給者証を持っていないため。
	対象が保育所の職員であるため、この質問は適切ではない。
	若い職員が多く、集団活動上の問題に難しさをかんじているが保護者が就労しているため、繋げるのが難しい。
	保護者の認識およびニーズがない。
	保育所等訪問支援事業の体制が不十分なため。関わりの困難な児童に対しては法的サービスで個別の対応に加え、保育所職員への指導が有用であるため。
	支援したい内容の法定サービスない
	障害福祉サービスを利用する程の障害程度ではないため
	手続きがなく手軽である
	法定サービス等情報周知が不足の為
	発達に心配のある児への対応についての専門的な助言をおこなえる機関がない
	他のサービスも併用して利用しているが多面的からの助言がほしいため。
	保護者が希望しない(児の現状を受容できないケースが多い)
	効果的な法定サービスを提供する事業者が近隣にないため。
	気になる子どもが多いため
	毎年依頼を受けて実施している。
	・保護者・家族の障がい認知
	・その他家族の様々な状況
	他のサービスが無いため
幼稚園	PT、OT、ST、保健師等の専門職が配置されていないため。
	当施設との連携が必要なため
	書類上障害児という表記が出てくるため、親の受け入れが整っておらず、保育所等訪問支援に繋ぐことは難しい。
	効果的な法定サービスを提供する事業所が近隣にないため。
	対象が保育所の職員であるため、この質問は適切ではない。
	若い職員が多く、集団活動上の問題に難しさをかんじているが保護者に状況の説明が難しい。
	療育手帳や受給者証を取得していない児童は多く、法定サービスにつなげることが難し
	保育所等訪問支援事業の体制が不十分なため。保育所等訪問支援事業で個別に対する指導を行うまでもない児のため。
	未確定の児に対して対応できる法定サービスがなく、園児の指導に助言が得られない
	支援したい内容の法定サービスない
	法定サービス等情報周知が不足の為
	発達に心配のある児への対応についての専門的な助言をおこなえる機関がない
	他のサービスも併用して利用しているが多面的からの助言がほしいため。
	効果的な法定サービスを提供する事業者が近隣にないため。
	・保護者・家族の障がい認知
	他のサービスが無いため
こども園	当施設との連携が必要なため
	・相談対象児は保護者がまだ認識していない場合や明らかな障害名がつかない場合もあり、法的サービスにつなげにくい。
	他の支援がなく、年2回の訪問で子どもの変化を見て助言してほしいため。
	・保護者・家族の障がい認知

#### 障害児等療育支援事業を利用する主な理由

児童発達支援事業所	行為障害が深刻で、児相を含め全法定サービスが関与しても状況が悪化していた為 障害児に対する専門的な技術の取得(発達・身体・摂食面等)
放課後等デイサービス事業所	肢体不自由児に対するポジショニングなどの専門智識を持った職員が不在なため。必要に応じて保護者にも助言してもらうため。 事業所に訪問して、直接職員への支援をおこなえるから 職員がっていない技能を習得できるから
保育所	発達に課題を抱える児の数が多く、職員が対応に苦慮しているため。 他市の同一団体の成り立ちや活動を通して、当事業の活動の見直しを行い、季節行事を行う事に対し、子ども達にどのように提示しどのように取り組むかを見通しを持たせ 専門的な支援・助言を必要としているため 他に利用できるものが現状ではないため。



	<p>・受給者証のない気になるお子さんを他の通常のお子さんとの保育の中でどのように対応していけばよいのかについて相談するために利用できる適当な制度が他にないため</p> <p>発達や構音やコミュニケーションの遅れに気がついて、適切かつ効果的なサービスを受けられないため。</p> <p>園が気になる子どもの保育の仕方に、困難を抱えているためにアドバイスがほしい。</p> <p>発達障害児への保育向上のため。</p> <p>対象者の発達状況の確認と集団活動上のアドバイス。</p> <p>保護者の支援ニーズに関わらず、保育士・在所児童のニーズに応じて支援を行うことができるため。</p> <p>通所受給者証の給付を受けていない児が在籍している園に対しても、支援を実施できるため。</p> <p>困難なケースに対応する専門的な評価が必要なため</p> <p>保育園とこども発達センターの連携を強化し、一人一人の児童について、専門知識を利用し、療育に繋げていきたい。日々の相談等へも発展させていきたい。</p> <p>専門家からのアドバイスを受けられるため</p> <p>手続きがなく手軽に利用できる</p> <p>障害特性から、総合保育だけでは不十分な為</p> <p>障害児に対する専門的な技術の取得(発達・身体・摂食面等)</p> <p>保護者から保育所への訪問希望があるため。園の保育士からも助言をもらいたいという声があるが、保育士が仕事上園から離れるのが難しいため</p> <p>保健師と一緒に年2回の巡回が定着し、乳幼児期の連携した発達サポートが上手く機能しているため。</p> <p>気になる児についての現状把握、関わり方、支援内容などの助言が欲しい</p> <p>発達・構音等の遅れに気付いても近隣市町村で適切なサービスを受けられないため。</p> <p>気になる子どもが多く、この事業のほかに専門職が訪問する事が少ない為</p> <p>毎年継続して依頼を受けている。</p> <p>・現場保育士に対して専門的なアドバイス、示唆等が欲しい</p> <p>・保育士支援</p> <p>発達の遅れなど他児と比べて気になるお子さんに対する支援の方向性や対応方法、またご家族への対応などへの助言。</p>
幼稚園	<p>発達に課題を抱える児の数が多く、職員が対応に苦慮しているため。</p> <p>他に利用できるものが現状ではないため。</p> <p>発達障害児への保育向上のため。</p> <p>対象者の発達状況の確認と集団活動上のアドバイス。</p> <p>保護者の支援ニーズに関わらず、保育士・在所児童のニーズに応じて支援を行うことができるため。</p> <p>通所受給者証の給付を受けていない児が在籍している園に対しても、支援を実施できるため。</p> <p>診断未確定の発達障害の恐れがある児に対しての特性の理解、指導方法の助言が得られることで児への適切な支援方法の確立や先生の資質向上につながるため。</p> <p>困難なケースに対応する専門的な評価が必要なため</p> <p>幼稚園とこども発達センターの連携を強化し、一人一人の児童について、専門知識を利用し、療育に繋げていきたい。日々の相談等へも発展させていきたい。</p> <p>障害特性から、総合保育だけでは不十分な為</p> <p>保護者から幼稚園への訪問希望があるため。園教諭からも助言をもらいたいという声があるが、仕事上園歌から離れることが出来ないため</p> <p>保健師と一緒に年2回の巡回が定着し、乳幼児期の連携した発達サポートが上手く機能しているため。</p> <p>発達・構音等の遅れに気付いても近隣市町村で適切なサービスを受けられないため。</p> <p>・現場教諭に対して専門的なアドバイス、示唆等が欲しい</p> <p>・教諭支援</p> <p>他の法定サービスも利用しているようであるが、毎年依頼がある。</p>
こども園	<p>・受給者証のない気になるお子さんを他の通常のお子さんとの保育の中でどのように対応していけばよいのかについて相談するために利用できる適当な制度が他にないため</p> <p>発達障害児への保育向上のため。</p> <p>保健師と一緒に年2回の巡回が定着し、乳幼児期の連携した発達サポートが上手く機能しているため。</p>

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・現場保育士に対して専門的なアドバイス、示唆等が欲しい</li><li>・保育士支援</li></ul> |
|--|

## その他の施設

### 訪問が必要となった主な理由

放課後児童クラブ	発達障害を抱え、不適応を起こしている児童に対する職員の理解を深め、関わり方について助言する必要が生じたため。 新規事業所で多問題のケースの対応支援。本人支援の方法助言。
児童養護施設	集団適応の相談
特別支援学校	・当センター相談室を利用されている児童について情報交換し、当センターで行っている指導内容を、学校での授業や指導に活用してもらうため 音楽療法士の専門技術を使用した音楽の授業を展開したい希望。授業後に教員に対してレクチャー。 家庭支援が必要なケースや多機関の連携が必要なケースの調整。 母子対象に器具を用いた運動方法の指導 摂食方法の指導 特別支援の理解と対応
小学校	発達障害を抱え、不適応を起こしている児童に対する職員の理解を深め、関わり方について助言する必要が生じたため。 学校との情報共有や本人支援を実施。 集団不適応の児童の相談・不登校等 ・保育所等時代から入学間もないころのフォロー、家族支援・社会的支援の必要な児童に対してのネットワークの構築と継続、教諭支援
中学校	家庭支援が必要なケースの介入。学校での対応が困難なケースの今後についての検討。 集団不適応の児童の相談・不登校等
高校	集団不適応の児童の相談・不登校等
その他	【学童保育所】 家族が困っていないが、本人に発達障害の疑いがあるときの支援方法や、家族へのアプローチについて。 【知的障害者福祉作業所】 リハビリテーション的、集団活動の指導、身体状況の説明及び介助方法の指導（歩行時の介助方法の指導/移乗方法等）、手すり設置位置の確認、 【託児所、親子教室】 お子さんや、親子関係について専門的に相談できる人がほしいということで依頼があったため。 【定期検診後の親子遊び】 健診後のフォローとして気になる児を対象としたグループ遊びの支援を依頼された為。支援可能な療育機関が地域に当園以外ないため。